

京都大学構内遺跡調査研究年報

1989～1991年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

埋蔵文化財研究センターでは、1977年に組織が設置されて以後、京都大学構内の吉田キャンパスのほか、理学部附属瀬戸臨海実験所構内などの附属施設を含めて計 45,000 m² を越える面積の発掘調査をおこなった。その間、縄文時代の集落の構造を知る良好な資料である住居跡や墓、古代の梵鐘铸造跡、あるいは京と近江坂本を結ぶ街道として文献に記されている中世・近世の道路跡などが次々に発見されて、東山西麓の先史時代から近世に至る長い歴史の一端を具体的に復原することができるようになった。

この年報は、1989年から1991年の3年間に発掘および整理調査を終了した、医学部附属病院構内での3地点における調査成果を第Ⅰ部とし、過去の調査で蓄積した資料の分析および調査法に関する開発成果を第Ⅱ部の紀要としておさめている。

なお構内の発掘調査は、従来京都大学構内遺跡調査会を編成して埋蔵文化財研究センターの指導のもとに実施してきたが、1992年3月で遺跡調査会が解散し、同年4月から発掘調査を含めて成果の出版に至るまでの事業を埋蔵文化財研究センターがおこなうことになった。今後とも当センターの活動に御支援くださるようお願いしたい。

末筆ながら、長年遺跡調査会の活動に御協力いただいた委員各位、ならびにここで報告する調査のさいに協力してくださった施設部、医学部、理学部、医学部附属病院の関係各位にお礼申し上げる次第である。

1993年5月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

小野山 節

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で1989年4月1日から1992年3月31日までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学埋蔵文化財研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 遺跡の位置は、図版1に示したように、国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割をおこなって表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系 ($x=-108,000$ $y=-20,000$) が ($X=2,000$ $Y=2,000$) となる京都大学構内座標によって表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE、土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通して表示を統一した。
Ⅰ：京都大学教養部構内AR21区の立合調査
Ⅱ：京都大学病院構内AH19区の発掘調査
Ⅲ：京都大学病院構内AE12・AE13区の発掘調査
(例 Ⅰ1：京都大学教養部構内AR21区出土遺物1番)
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 第Ⅰ部の参考文献は、本文中に、〔著者名 発表年〕の形式で表わし、第Ⅰ部の末に一括した。ただし、本文中の発表年は西暦年号のうち下2桁で表示した。第Ⅱ部については、章末の注に一括して記載した。
- 8 遺構・遺物の実測と製図は、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、千葉豊、森下章司、伊藤淳史、石田由利子、植山京子、磯谷敦子、宮原恵美子がおこなった。遺物の撮影は伊藤淳史が担当した。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに記した。
- 10 編集は、清水芳裕が担当し、五十川伸矢、浜崎一志、千葉豊、森下章司、伊藤淳史、古賀秀策、石田由利子、磯谷敦子、中田敬子、宮原恵美子が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 1989～1991年度

目 次

第 I 部 1989～1991年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 1989～1991年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	1
3 北部構内 BA28 区の試掘調査	2
4 教養部構内 AR21 区の立合調査	4
第 2 章 京都大学病院構内 AH19 区の発掘調査	7
1 調査の経過	7
2 層位と遺構	9
3 古代の遺跡	11
4 中世の遺跡	13
5 近世の遺跡	25
6 小 結	29
第 3 章 京都大学病院構内 AE12・AE13 区の発掘調査	31
1 調査の経過	31
2 層 位	31
3 遺 構	32
4 遺 物	37
5 小 結	40
参 考 文 献	42
京都大学構内遺跡調査要項	44

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 X

京都盆地の縄文時代遺跡	53
1 はじめに	53
2 京都盆地縄文時代遺跡の群別	53
3 遺跡群の時期的消長とその実態	55
4 遺跡を結びつける関係	66
5 展 望	69
地理情報システムを用いた遺跡データベースの試験的研究	75
1 はじめに	75
2 図形情報データベース	76
3 文字情報データベース	77
4 地理情報システムについて	78
5 遺構データベースを用いた条坊地割の復原	83
図 版	巻末

図 版 目 次

- 図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 図版 2 京都大学病院構内 AH19 区
- 1 調査区北部全景 (東から)
 - 2 調査区南部全景 (東から)
- 図版 3 京都大学病院構内 AH19 区
- 1 土坑 SK22 (北から)
 - 2 土坑 SK3 遺物出土状況 (北から)
- 図版 4 京都大学病院構内 AH19 区
- 1 土坑 SK6 遺物出土状況 (南から)
 - 2 溝 SD5 (東から)
- 図版 5 京都大学病院構内 AH19 区
- 1 井戸 SE1 (北から)
 - 2 井戸 SE2 (東から)
- 図版 6 京都大学病院構内 AH19 区
- 1 溝 SD20～SD23 (西から)
 - 2 溝 SD20 埋積状況 (東から)
- 図版 7 京都大学病院構内 AH19 区
SK22 出土遺物, SK3 出土遺物
- 図版 8 京都大学病院構内 AH19 区
SK6 出土遺物
- 図版 9 京都大学病院構内 AH19 区
黒書土器, SK23 出土遺物
- 図版10 京都大学病院構内 AH19 区
SK43 出土遺物, SK20 出土遺物, SD5 出土遺物, SE2 出土遺物
- 図版11 京都大学病院構内 AH19 区
SD22 出土遺物

- 図版12 京都大学病院構内 AH19 区
SD22 出土遺物, SD23 出土遺物, SD24 出土遺物
- 図版13 京都大学病院構内 AE12・AE13 区
1 AE12 区西半の遺構 (南から)
2 AE13 区西半の遺構 (北から)
- 図版14 京都大学病院構内 AE12・AE13 区
1 井戸 SE25 (東から) 2 井戸 SE18 (西から)
3 井戸 SE11 (南から) 4 井戸 SE21 (南から)
5 井戸 SE22 (南から) 6 井戸 SE8 (南から)
- 図版15 京都大学病院構内 AE12・AE13 区
SE2 出土遺物, SE4 出土遺物, SE15 出土遺物, SE16 出土遺物
- 図版16 京都大学病院構内 AE12・AE13 区
1 SE1 出土遺物, SE5 出土遺物
2 SE26 出土遺物, SE24 出土遺物, SE27 出土遺物

挿 図 目 次

1989～1991年度構内遺跡調査の概要		図 9 SK22・SK44・ SR1・SR2 出土遺物……………12
図 1 試掘調査の位置と 周辺の調査区…………… 3	図 10 土坑 SK3 遺物出土状況……………13	
図 2 TP3～TP5 東壁の層位…………… 3	図 11 SK3 出土遺物……………14	
図 3 立合調査の位置…………… 5	図 12 土坑 SK6 遺物出土状況……………16	
図 4 E地点・C地点・D地点・ A地点・F～E間の層位…………… 5	図 13 SK6 出土遺物(1)……………18	
図 5 SK2・SK1・ 黒灰色土出土遺物…………… 6	図 14 SK6 出土遺物(2)……………19	
病院構内 AH19 区の発掘調査		図 15 墨書土器……………20
図 6 病院東構内の遺構…………… 8	図 16 SK23・SK43・ SK20・SK11 出土遺物……………21	
図 7 調査区の層位…………… 9	図 17 SD3・SD7・SD9・ SD5・SE1・SE2 出土遺物……………23	
図 8 調査区検出の遺構……………10		

図18 井戸SE1・SE2	24	京都盆地の縄文時代遺跡	
図19 SD22 出土遺物	26	図29 京都盆地の縄文時代遺跡分布	54
図20 SD22・SD23 出土遺物	27	図30 各府県・各地方の	
図21 SD24 出土遺物	28	遺跡数時期別比率	56
病院構内AE12・AE13区の発掘調査		地理情報システムを用いた	
図22 調査区の層位	32	遺跡データベースの試験的研究	
図23 近世の遺構	33	図31 遺跡データベースの概念図	79
図24 井戸SE8・SE5	34	図32 遺構データベースの背景面像	80
図25 井戸SE2・SE11	35	図33 本部構内AW28区周辺の遺構	80
図26 井戸SE12・SE15・		図34 発掘区の文字情報	80
SE18・SE21	36	図35 教養部構内AP22区の	
図27 SE2・SE1・SE5・		遺構の文字情報	81
SE4 出土遺物	38	図36 検索結果を点線で表示	81
図28 SE15・SE17・SE16・		図37 溝SD10と推定築地中心線	81
SE26・SE24・SE27・		図38 街路に関する文献情報の表示	82
SE22 出土遺物	39	図39 検索結果を点線で表示	82
		図40 白河の条坊地割復原図	82

表 目 次

表1 SK3・SK6 出土土師器	15	表5 京都盆地縄文時代	
表2 京都大学構内遺跡の		遺跡の消長	58
おもな調査	48	表6 主要な遺構のみつかった遺跡	63
表3 京都盆地時期別遺跡数の推移	57	表7 祭祀遺物出土遺跡	64
表4 京都盆地土器型式別		表8 遺跡別・時期別の土器の胎土	69
遺跡数の推移	57		

第 I 部 1989～1991年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 1989～1991年度京都大学構内遺跡調査の概要

第 2 章 京都大学病院構内 AH19 区の発掘調査

第 3 章 京都大学病院構内 AE12・AE13 区の発掘調査

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 X

京都盆地の縄文時代遺跡

千葉 豊

地理情報システムを用いた

遺跡データベースの試験的研究

浜崎 一志

1993年5月31日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

1989～1991年度

編集 京都大学埋蔵文化財研究センター
発行 京都市左京区吉田本町
印刷 山代印刷株式会社
製本 京都市上京区寺之内小川西入